

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番56	福山市立久松台小学校
最終更新日		2024年(令和6年)4月8日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、学校・教職員が自主性・自律性を発揮し「学校文化を変える仕組みをつくる」「子ども主体の学び」向かって自ら・ともに「鍛える」「支える」</p>
--

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>全国学力調査の結果、校区小学校は福山市の平均正答率を上回ったが、本校は下回る結果となった。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合い、実践した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&amp;倫理観”</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかがわる力 社会貢献力 自己形成力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、判断し、行動できる自律した児童生徒</li> <li>・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、人を大切にする児童生徒</li> <li>・校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組</li> <li>・DC教育を基に、ICTを活用した個別最適化した授業実践及び協議・交流の取組</li> <li>・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組</li> <li>・合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組</li> </ul>
---	--	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>未来を切り拓く「生きる力」を育成する 「すべては子どもたちのために」を基底に据え、学校・保護者・地域が連携し、「この学校へ来てよかった」「この学校へ来てさせてよかった」といわれる学校に</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&amp;倫理観”</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>思考力・判断力・表現力 Ⓔ</p> <p>他者とかがわる力 Ⓕ</p> <p>自己効力感 Ⓖ</p>	<p>自分の考えや経験を基に自己決定したり、じっくり内省したりして、自律に向かうことができる。</p> <p>受容的で率直な対話を通して、互いの考えの共通点を見つけたり、新たな気づきを得たりすることができる。</p> <p>自分の良さを認め、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しようとしている。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自ら考え 正しく判断し 行動する 感性豊かな子</p>	<p>テーマ</p> <p>自分で決めて、やってみて、考える ～自律を促す学びの創造～</p>	<p>研究</p> <p>内容等</p> <p>「目標設定」「ふり返し」に全校で取り組める環境づくり ①単元のはじめに既習をふり返し、単元でつきたい力を見通す。 ②単元の終わりに、児童がふり返しを残す。 ③教材研究日(毎週月曜日)に、教員間で①と②の取組を交流する。 ④自主学習計画表と自主学習ノートの交流に、継続して取り組む。 ⑤校内研修毎に、教員一人一人が自分の「やってみよう」を決めて確実に取り組む。</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>Ⓔ 自分で決めて、やってみて、考える機会を保障した授業 Ⓕ 児童が、自己決定したり、じっくり内省したりする授業 教師が、児童の実態からの確なファシリテートをする授業 Ⓖ 受容的で率直な対話を通して、新たな気づきが得られる授業 課題に対して自己決定や自己選択することができ、子ども達が進んで挑戦できる授業</p>
<p>現状</p> <p>&lt;テストで測れる学力&gt;(全国学力・学習状況調査等の結果より) 【〇成果 ●課題】 ○全国学力・学習状況調査の「国語・算数」では全国平均・県平均を上回り、基礎的・基本的な学力はおおむね定着している。また、無回答率が低かった。 ○授業づくりで、友達との対話や図化などの意見を説明し合う場面を多くしたことで、児童の主体性を伸ばすことができた。 ●国語科で、提示された全ての条件を満たして書く力が弱い。 ●算数科で、二次元の表など、多くの情報の中から必要な情報を見つけ出す力が弱い。</p> <p>&lt;非認知能力&gt;(2023年度末に職員で分析した児童の実態より) 【〇自律に向かっている姿 ●自律から遠ざかっている姿】 ○自分の考えをもち、なおかつ他者にそれを伝える力が伸びている。 ○自主学習への主体性が昨年度よりも伸び、自律に近づいている。 ●自己の伸びや課題についてのメタ認知や、それをやる習慣や、メタ認知のための語彙などが育っていない。</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>Ⓔ 自分で決めて、やってみて、考える機会を保障した授業 Ⓕ 児童が、自己決定したり、じっくり内省したりする授業 教師が、児童の実態からの確なファシリテートをする授業 Ⓖ 受容的で率直な対話を通して、新たな気づきが得られる授業 課題に対して自己決定や自己選択することができ、子ども達が進んで挑戦できる授業</p>		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立久松台小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力 <sub>レ</sub> セ <sub>レ</sub> ス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 <sub>レ</sub> セ <sub>レ</sub> ス 評価	達成 評価	総合 評価
3	自ら考え学 ぶ児童(主体 性)の育成	★	継続	自己決定して行 動し、そこから 前向きに学びを 見出す、自律し た児童の育成	授業で、児童一人 一人が自分で選 ぶ場面を保障す る。児童と、単元 のはじめに既習 の振り返りを行 い、単元目標を立 てる。自主学習の 振り返りや交流 を月に1回行い、 次月のめあてを もつ。	「自分のふり返 りをもとにして、 次の『やってみよ う』を見つけてい る。」と答える児 童の割合を、各学 級90%以上に する。								
			継続	自分の良さに気 付き、自信をも って物事に挑戦 できるととも に、思いやりを もって相手と関 わることができ る児童の育成	友達の良さに気 付き、伝え合う 取組を行う。月 に1回の「なか まタイム」、たて わり掃除等を実 施し、他者と関 わる場を設定す る。教職員間で 学級経営につい て分析・交流し 合う研修を実施 する。	「周りの人から認 められることがあ る」と肯定的に答 える児童を80%以 上にする。								
			新規	自分の身体に興 味関心をもち、 健康の保持・増 進に向けて行動 することができる 児童の育成	年間を通してミニ マラソンや大縄に 取り組み、体力の 向上や運動の楽し さを感じられる機 会を設定する。ミ ニ保健やランチル ーム給食を通し て、児童の実態に 応じた保健指導・ 食に関する指導を 行う。	体力・健康に関する アンケート(運動・ 保健・食に関する指 導の観点)から健 康の保持・増進 に向けた行動がで きているという児童 を85%以上にする。								
3	教職員の資 質・能力の向 上	★	継続	子どもたちの自 律を促す授業の 創造	教職員が、「自 律を促す授業づ くり」に取り組 むヒントを得ら	学期末に、教職員 に「前回の研究授 業で得た学びを 基に、どのような								

				れる研究授業や職員研修を計画, 実施する。	取組をしましたか」というアンケートを実施する。肯定的割合を, 90%以上にする。								
3	地域に貢献する学校	継続	持続可能な社会について探究し, 地域に還元する児童の育成 (SDGs)	生活科の学習や総合的な学習の時間に, 地域に根づいた持続可能な社会づくりについて学び, 実践をする。	児童アンケート「持続可能な社会づくりのために自分達ができる事に取り組んでいる」に対する肯定的割合を80%以上にする。								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ, 状況の変化, 問題が生じた際は, 協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し, 十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ, 状況の変化, 問題が生じた際は, 協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し, 望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ, 状況の変化, 問題が生じた際は, 協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し, 一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く, 状況の変化, 問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り, 成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず, 状況の変化, 問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り, 成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。